



もてなしの心で語る わが街

# えな自慢

えな自慢  
37

## 日本大正村

まち全体が大正博物館



▲大正村役場

### ひと口メモ

大正ロマン館からの景色もよいが、まち外れの高台にある千畳敷公園からの眺望は格別。日本大正村は物質的なものより精神的な要素が強く、究極の目的は日本中の人たちが大正時代をしのぶメッカとなること。

明智町の市街地全体に残る大正のモダン建物や、大正時代の文化から日常生活までの歴史資料を、街全体で展示している全国唯一の博物館。観光客のガイドやイベントから主要施設の運営まで、ボランティアで取り組んでいるのが特徴。文芸写真家の故澤田正春らの発案で、1988（昭和63）年に開村式を実施。初代村長は高峰三枝子、二代目の現村長は司葉子が就任。村内には、文化庁の登録有形文化財である大正村役場や元銀行蔵の大正村資料館、蔵の並ぶ大正路地などあり、郷土出身の画家山本芳翠の油絵のある大正ロマン館も人気。2011（平成23）年には「大正百年祭」を開催するよう準備が進められている。



▲日本大正村のイメージキャラクター「大正ロマンちゃん」

## 正家廃寺跡

8世紀の大伽藍跡

えな自慢  
38  
えな史



▲正家廃寺跡に残る塔の心礎

### ひと口メモ

古代の恵那地域には長島町正家の正家廃寺と山岡町上手向の手向廃寺があったとされる。正家廃寺は、1977（昭和52）年から南山大学が4年間、1992（平成4）年からは市教育委員会が発掘調査を行った。

長島町にある奈良時代の寺跡で国の史跡。正家地内の国道257号から西に入った丘陵上に位置し、高塚状に塔と金堂の基壇が残っている。遺構調査の結果、東西110㍍、南北70㍍の寺域を有し、主要伽藍を法隆寺式に配置する本格的な古代寺院跡と判明。国宝玉虫厨子と同じ柱の配置をとる特異な構造の金堂、希少性の高い風鐸や奈良三彩陶器などの遺物、日本最古の床板を有する堅穴住居など多くの特色ある成果があった。瓦はまったく出土せず、屋根は板葺きあるいは椀皮葺きであったと考えられる。8世紀前半に造営に着手され、その後9世紀後半に主要伽藍の火災を契機として廃絶したものとされる。



▲平成5年度の発掘調査（航空写真）

次号は12月15日号と  
1月1日号の合併号  
発行日は12月21日（火）です

広報えな No.141  
2010年（平成22年）  
12月1日発行

発行 恵那市役所／編集 企画課広報広聴係  
岐阜県恵那市長島町正家一丁目1番地1 ☎26-2111 / ☎25-6150  
<http://www.city.ena.lg.jp/> ✉info@city.ena.lg.jp

『広報えな』12月1日号、  
1部当たりの印刷経費は  
約11.3円（税込み）です。



恵那市安心安全メール配信システム  
登録用QRコード  
□問い合わせ 防災情報課（内線317）

『広報えな』は環境に優しい再生紙を使用しています。



この印刷物は石油系インキではなく、  
地球に優しい植物油を使用したインキ  
で印刷されています。